

言葉の大切さ

福島県福島市立松陵中学校

三年 石川 海

私の中学校には先輩方が築きあげてきた、地域交流活動というものがありません。学校の各委員会がそれぞれ準備し、地域の方々と交流するというものです。私が所属している代議員会では様々な年代が集まったグループをいくつか作り、地域のために出来る事を体育館で話し合うサミットが行われることになりました。私は緊張する気持ちが大きく、きちんと話し合えるかとても怖かったです。

昔から人見知りで、初めて会う人やたまにしか会わない人と話す事がとても苦手でした。私が代議員になることが決まった時、クラスの代表として様々な事をみんなの前でやりこなせるか不安の気持ちがとても強かったのです。そこからやっと慣れてきたころの地域交流活動でした。

いよいよ本番の日、体育館にぞくぞくと入ってくる地域の方々を見えますます緊張し、本当にやっていけないか不安になりました。ですが、体育館に入ってくるみなさんにあいさつをすると笑顔で返してくれる方がとても多かったです。その時に私の気持ちは少し楽になりました。このような活動がないとなかなか地域の方々とふれあう事もないので、みなさんの優しさに感動したのです。

しかし、いざみなさんとお話しすると、どうしても言葉が出てこなく、同じグループの方とも最初は会話がなかなか続きませんでした。

私のグループには私の中学校を卒業した高校生も参加していたのですが、とても大人のような口調で地域の方々と話していてとても立派で、うらやましく思いました。地域の方も話しやすそうで、笑顔で接していました。

どうすればこのように接することが出来るのか不思議で、この後の時間を自分はどうしたらいいのか分からなくなりました。それでも、きちんと会話に参加しなければ、中学生として引っ張っていかなければ、と思いつつ積極的に自分なりに頑張っていました。

個人で今回のテーマにそって考えたことをグループ内で発表し合うことになり、お互いに意見を交換し合いました。仲の良い、親しい人とは意見を言い合えるのですが、初対面の人の前となると考えただけで心拍数が上がっていくのを感じました。

そのような緊張の中、私の発表の番になりました。私の意見を話すと、

「そうだね、そういうのもあるよね。」

「私もそれは思いました。共感です。」

と優しい言葉をかけてくださいました。その瞬間、私の緊張はだいぶ和らぎ、安心しました。

「そんなに緊張しなくていい。こんな機会はめったにないから、リラクセスして自分なりに楽しもう。」という気持ちに変わったのです。

そこからは全体の、全員の前で発表するための準備に入りました。私の緊張する気持ちも少なくなり、みなさんと楽しく進めることが出来ました。自分たちの伝えたい事を自分たちなりにまとめ、役割分担まで決めたところで、まだ時間があつたのでグルー

プ内でリハーサルをやることになりました。一度和らいだ緊張感も全員の前での発表となると再びよみがえってきました。そのような時も、

「頑張つて。落ちついてね。」

「緊張は良い事だ。頑張れ。」

という言葉をかけてくださり、本当に心の支えとなりました。リハーサルでは時間を計り伝えたい事なるべく短く、内容の濃いものにするために考えていました。地域の方々も積極的に意見を出してくださいより良いものになりました。再度リハーサルをした後、いよいよ本番となり私の緊張も高まるばかりでした。

グループのみなさんと話し合つて出た結果は私にとってはとても良いものだと思います。緊張しないで最後まで楽しもうと決めました。私たちの番がきて作成した資料を持ち、ステージへ上がるうとした時、同じグループの方が

「頑張ろうね。自信持つていこう。」

と最後に声をかけてくださり、私もだいぶ落ちつくことが出来ました。

全く緊張しなかったわけでもなかったのですが、発表は私にとつて大成功でした。私が落ちついて出来たのは絶対に地域の方の言葉のおかげだと感じました。

この活動では私が緊張した時、不安な時に地域のみなさんが声をかけてくださりました。私をほげまし、心を支え、緊張を解いてくれた魔法のようなものを感じました。全ての予定が終わった後、

「立派でかっこよかったです。」

と言われた時は本当にうれしかったです。言葉の大切さ、温かさ、優しさに気付かされたとても貴重な体験となりました。